

令和 8 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立志和小・中学校
学校長名 玉里 周二

1 研究主題等について

(1) 研究主題

推論する力を育成・発揮する授業づくり
～eSTEAM 教育の実践と学ぶ意義の自覚を促す「学習ログ」の工夫を通して～

(2) 研究主題の設定

本校では、広島県や東広島市が目指している児童生徒像の実現を目指すために必要となる資質・能力は「推論する力」であると捉え、小中学校 9 年間を通して、推論する力を育成する授業づくりを行っている。昨年度、算数科、数学科、生活科、理科において、推論する力を育成・発揮するために「推論ステップ」を見出し、授業の中で活用した。今年度は、全教科においてこの「推論ステップ」を展開し、児童生徒の推論する力の育成・発揮に効果的であるかどうかを検証することとした。

また、昨年度、教科の学習の中で育成した推論する力を発揮する場として「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発を行った。このカリキュラム開発においては、教科横断的な学びを通じて実社会の課題を発見・解決し、創造性を育む STEAM 教育の視点を盛り込んだ「志和小中学校版 eSTEAM 教育」を開発した。そして、今年度は、総合的な学習の時間において、「志和小中学校版 eSTEAM 教育」の視点を盛り込んだカリキュラムのブラッシュアップを図るとともに、総合的な学習の時間だけでなく、教科学習においても、「志和小中学校版 eSTEAM 教育」¹の実現が可能であるかどうかを検証することとした。

さらに、現在、小学校では令和 12 年度、中学校では令和 13 年度から実施される学習指導要領の改訂作業が進んでいる。論点整理やワーキンググループでの議論を踏まえると、各教科における「学ぶことの意義」について再考していく時期にあると考える。

例えば、論点整理においては、『見方・考え方』自体は、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核²として検討されている。また、「真偽の程は別として、手軽に情報が得られるデジタル時代だからこそ、学ぶことの意義についての理解を深めること」³が求められている。

このことから、「各教科等を学ぶ本質的な意義」について検討し、児童生徒が学ぶ意義を実感できる授業づくりを実践していくこととした。その際、児童生徒が学びを俯瞰することができる「学習ログ」の工夫が必要であると考えた。発達段階や各教科の特性に応じた「学習ログ」をどのように工夫すれば、児童生徒に各教科を学ぶ意義を実感できるようになるのか検証することとした。

¹ 「志和小中学校版 eSTEAM 教育」：赤堀侃司氏の STEAM 教育をコンテンツではなく、コンピテンシーで捉える考え方。例えば、e (environmen) では、「持続可能な方法」で考える。S (Science) では、「法則性や規則性」を考える。など

² 教育課程企画特別部会 論点整理、令和 7 年 9 月、中央教育審議会教育課程企画特別部会

³ 「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」、令和 6 年 12 月、文部科学省初等中等教育局

(3) 研究仮説

研究主題を実現するために次の3点を研究仮説として設定した。

- ① 「推論ステップ」を全教科で展開すれば、児童・生徒に「推論する力」を育成することができるであろう。
- ② 志和小中学校版 eSTEAM 教育を、総合的な学習の時間だけでなく、教科の学習の中で取り入れることができれば、創造力（自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題解決に導き、さらに新たな問題の発見・解決につなげるなど、主体的に新たな価値を創造すること）を育成することができるであろう。
- ③ 各教科で「学ぶ意義」について協議した手立てや学習ログを授業の中で継続的に取り入れることで、児童・生徒にその教科を学ぶ意義を実感することができるであろう。

(4) 研究内容

- ① 推論ステップを全教科（担当教科）で実践する。
- ② 志和小中学校版 eSTEAM 教育を総合的な学習の時間だけでなく、教科の学習の中でも実践できるようカリキュラムマネジメントを行う。
- ③ 教科を学ぶ意義が実感できる授業づくり、学習ログづくり。

(5) 検証の視点とその指標

- ① 「推論ステップ」を全教科で展開すれば、児童・生徒に「推論する力」を育成することができるであろう。

検証の視点	方法	検証の指標及び達成目標
推論する力の育成	独自調査問題	推論する力を図る調査問題を実施し、昨年度の正答率と比較する。 ＜達成目標＞ 平均正答率を昨年度より＋3ポイント

- ② 志和小中学校版 eSTEAM 教育を、総合的な学習の時間だけでなく、教科の学習の中で取り入れることができれば、創造力（自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題解決に導き、さらに新たな問題の発見・解決につなげるなど、主体的に新たな価値を創造すること⁴⁾）を育成することができるであろう。

検証の視点	方法	検証の指標及び達成目標
創造力の育成	パフォーマンス評価	パフォーマンス評価における児童・生徒記述分析 ＜達成目標＞ ルーブリック評価3以上：7割以上
	児童生徒アンケート	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」 「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」 など ＜達成目標＞ 前期アンケートより＋3ポイント

⁴ 「第6次学校教育レベルアッププラン」、令和7年4月、東広島市教育委員会

- ③ 各教科で「学ぶ意義」について協議した手立てや学習ログを授業の中で継続的に取り入れることで、児童・生徒にその教科を学ぶ意義を実感することができるであろう。

検証の視点	方法	検証の指標及び達成目標
学ぶ意義の実感	記述分析	児童生徒の学習ログの記述分析 ＜達成目標＞ ループリック評価 3 以上：7 割以上
	児童生徒アンケート	「〇〇の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つ」 「〇〇の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できている」 など ＜達成目標＞ 前期アンケートより + 3 ポイント

2 検証計画 (○_ 教職員検証作成項目 ●_ 児童・生徒実施検証内容)

実施時期	検証計画	検証の視点
4 月 5 月	○ 検証の視点とその方法及び指標の作成 ○ ループリック作成 ○ 児童生徒意識調査項目等作成・協議・実施	
6 月～11 月 (授業実践)	● 児童生徒意識調査等実施 ○ パフォーマンス評価及びループリックの作成 ○ 「推論する力」の検証	②③ ② ①
12 月～1 月	● 児童生徒意識調査等実施 ● 評価テスト実施 (小中学校で実施) ○ 児童生徒・教員変容分析	②③ ①

3 研究計画

	理論研究・部内研究	研究授業
4 月	○研究主題、研究仮説等研修	
5 月	○ループリック作成 ○部内研修 (研究内容、授業づくり)	○研究授業 (小学校算数) ・推論プロセスの具現化 ・各教科における学ぶ意義について
6 月		○研究授業 (特別支援教育) ・特別支援教育のあり方 ・学習ログの作成及び協議
7 月	○理論研修 (学習ログ/eSTEAM 教育)	○研究授業 (特別支援教育)
8 月	○理論研修 (カリキュラム・マネジメント)	

9月		○研究授業（小学校算数科） （中学校国語）
10月		○研究授業（中学校数学科） （特別支援教育） （中学校社会科） （小学校保健体育）
11月		○研究授業（中学校英語科） （中学校理科） （特別支援教育） （小学校国語科） （小学校英語科）
12月	○児童生徒検証	○研究授業（中学校英語科） （中学校保健体育科） （小学校理科）
1月	○研究のまとめ（検証の指標をもとに）	○研究授業（小学校国語科）
2月	○来年度の研究の方向性について	○ <u>研究授業（小学校理科）</u>
3月	○次年度に向けて	

（研究授業はブロック別研修とする。ただし、下線部の授業は全体研修とする）